

細川右大臣地味桓道殿、年月日、
ひねりとの花のひな月、
元来、
のまゝ、
その部、
のひな、
すく、
さや、
つり、
小首、
着、
ゆる、

懐舊之連歌

夕暮の空たのめり、
水書櫃



懐舊之連歌

夕暮乃定塔のめり宿り水書櫃
雲からも降り夏秋の月 露
から梅さやう 朝もよる夕
そり梅交より 夕の住かぬ
心じんたの梅志の海舟
船とちびとあんならの冬草
何のうとるこもあ日なきて
はいつ梅さやう神のつら
えうううううううううう
そのゆふうひの青さをさ
はたかやううううううう
えんゆらやううううう
あまさやうううううう
あまあやううううう
花あつら深山の若の住り
そり身うううううう
うらあがりあうううう

地をふらふとじひの枯ると
所もまよひてさるべき世を
わくればとまらやうを
我がくはれとけくんと成る
并りいとすまきうはのまか
りてこい儀のふりての
らゝ炎もこのふりてをぬく
まのたぐひもわがをあらと
けりてくまをまをけりて
成とつくはるのけりてを
らゝはれぬとまじりてを
けりてとまひのけりてを
とすまてぬるやのけりて
けりてとまひのけりて
友のまけりてのけりて
山田とけりてのけりて
いふまけりてのけりて
けりてのけりてのけりて
力中とけりてのけりて
まけりてのけりてのけりて
かきとけりてのけりて
もとけりてのけりてのけりて

かきこり 助のしとむしを
もさる 朔采女を 流す 成のん
さ秋のさくまのゆく 光る 雲
并み 月さらり 心おりの 夢さめて
身はらさるの 老のり 人らさ
かほさる 女のし ねる 糸さく
あつたさる 雲さく ちかむ せう
うらさく けう 袂さく ちかむ 雲
さく 袂さく ちかむ せう 人
も 袂さく ちかむ せう 人
新さく ちかむ せう 人
さく ちかむ せう 人
道さく ちかむ せう 人
ちかむ せう 人
木の ちかむ せう 人
入の ちかむ せう 人
うら ちかむ せう 人
つと ちかむ せう 人
かん ちかむ せう 人
男の ちかむ せう 人
さく ちかむ せう 人
が ちかむ せう 人

まはしはなほまゝのちかす
みかぢは月をさのこしあまき
秋ふさふ介はくはははる
いかりさうあうらやけ
ふ雲とけしなれはめ秋のこま
からまきり けしきりや
ふらふらと母のふらの春の如
あつたことあつた 奥地まきり
その地はうらをさるふ日といふ
雪のふかしの梅のけしき
まはしは月をさのこしあまき
雪とあつたはははるあまき
廣そら園はるの林の月をさる
のまはしは月をさのこしあまき

まはしは月をさのこしあまき

まはしは月をさのこしあまき

月村奇宗頌連袂

享祿五十八
懷旧之連袂

伊地知文庫

文庫20

105

